

## 2018 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 渋谷区立富谷小学校 ] 担当教諭名 [ 西村 綾乃・加藤 健介 ] ( 6年1・2組 65名 )

相手国・地域 [ 台湾 ]

海外学校名 [ Hsin Chya Elementary School ] 担当教諭名 [ Sandy Yang ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	世界とつながろう・アートマイル	15
	外国語	自己紹介	2
	外国語	日本の文化紹介	3

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	日本の伝統文化を伝えよう
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	どの国にも伝統や文化があり、共通点も相違点もある。互いの伝統文化を知ること で、理解を深めよりよい関係・平和な世の中を築いていこう。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションツールとしての英語の必要性を実感し、積極的に学習に取り組んでいたこと。</li> <li>・他国文化を知ること、自国の文化を見つめなおすことができたこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手校との連絡が遅れがちになったこと。</li> <li>・スカイプを通じた交流の時間が、内容のわりに短かったこと。(接続状況等も含め)</li> </ul>

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語での交流に不安を感じていたが、実際に交流することを通して言語以外のコミュニケーションの手段を駆使することで気持ちが伝わるということに気が付いた児童が多かった。</li> <li>・国は異なるけれど、共通点がたくさんあり、親しみをを感じるようになった。</li> <li>・国際交流への意欲が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両国で協力し合うことで、児童に還元されることが多いことに気付いた。また直接交流に必要な環境整備、英語でのやり取りのための地域人材の活用についての必要性を感じた。</li> <li>・直接交流を目的にすることで、外国語の学習のモチベーションが上げられ、英語の指導内容も工夫できた。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	・学校紹介 (パワーポイントを作成) ・自己紹介 (スカイプで直接交流)	・学校の特色を見つめ直し、自校の理解が深まった。 ・英語での自己紹介を通して、英語を学ぶことの意欲が高まった。	総合 外国語
共有 テーマ学習	10月	・自国の文化紹介 (スカイプで直接交流) ・文化紹介から考えたことの共有 (スカイプで直接交流)	・文化紹介をするために、改めて自国文化を調べ、日本の良さを見つめ直すことができた。 ・相手国との共通点・相違点について考え、文化の多様性、両国の特徴を改めて感じる事ができた。	総合 外国語
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	11月	・何を表現していくかについての話し合い (各学校で考え、メールを通して意見交換) ・デザインの提案 (各学校で検討し、メールで交流)	・「日本の伝統文化」について考えることで、自国に対する誇りと愛情をもつことができた。	総合
創造 壁画制作	12月 1月	・下絵描き ・色付け ・メッセージ書き (各学校にて)	・自分たちの伝統文化が何を大切にするかについて改めて考えることができた。	総合
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	・活動の振り返り (学んだこと、考えたことのプレゼン発表) ・柄の鑑賞と全校への紹介 (各学校にて)	・出来上がった絵を見て、両国の共通点・相違点を改めて感じていた。	総合

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	5	自国の文化について相手に紹介するためには、まず自分たちが理解し、どのようにかみ砕いて紹介するかを考えなければならないため、しっかりとした調べ学習ができたから。
異文化を理解する力	5	直接交流を通して、調べ学習だけでは理解できない相手の国の様子や考え方を知ることができ、振り返りに書いていたから。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	紹介するための活動が、目的意識をもって行われていたから。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	5	スカイプでの紹介のため、相手に理解してもらうための工夫(言葉・写真・演技など)をしていたことや、相手の反応をダイレクトに感じ、本校児童もしっかり手ごたえを感じていた点から。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	2つの文化間にある共通点や相違点について考えることができたから。
主体的に考え行動する力	4	相手の理解を求めるために、自分たちでどうしたらよいか発表内容や方法を考えていたから。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	目的が明確なため、友達や小集団、学級、相手国と話し合いながら進めることができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	相手のはっきりしているため、常に相手を意識して表現することができた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	3	鑑賞については全校に紹介し、振り返ったが、自己評価にまでは至らなかった。